

- LY : Priming effects of HIV risk assessments on related perception and behavior : An experimental field study. *AIDS Behavior*, 1(1) : 3-8, 1997.
- 38) Weinhardt LS, Forsyth AD, Carey MP, Jaworski BC, Durant LE : Reliability and validity of self-report measures of HIV-related sexual behavior : Progress since 1990 and recommendations for research and practice. *Archives of Sexual Behavior*, 27(2) : 155-180, 1998.
- 39) 吉嶺敏子, 木原雅子, 市川誠一, 木原正博 : 性行動に関する質問票の信頼性に関する研究. *日本エイズ学会誌*, 8(2) : 115-122, 2006.
- 40) Global HIV prevention working group : Global mobilization for HIV prevention: A blue print for action. July 2002.
- 41) UNAIDS : 2004 report on the bal AIDS epidemic : 4<sup>th</sup> global report. June 2004.
- 42) 木原正博, 木原雅子 : わが国の予防対策の歴史と展望. *日本エイズ学会誌*, 6(3) : 107-109, 2004.
- 43) 竹原健二, 三砂ちづる, 本田靖 : 高校生における性行動と性教育に対するニーズ. *民族衛生*, 72(6) : 215-224, 2006.

・平成 19 年度・

## A. 研究目的

わが国の HIV 感染者の報告数は 1996 年以降, 増加し続けており, 2006 年には 952 件となった。新規の HIV 感染者の中では, 20~30 歳代の割合が約 70%を占めている<sup>1)</sup>。このような現状に対して, HIV 感染者拡大を抑制すべく, 若者のリスクの高い性行動を予防するような教育的アプローチに加え, 保健所など

における HIV スクリーニング検査の普及が図られている。

厚生労働省は「HIV 検査普及週間<sup>2)</sup>」といったキャンペーンを実施し, 国民への HIV 検査の普及を図るなど, HIV 予防および検査に対する関心を喚起している。HIV 迅速診断キットを用いた即日検査の導入など, 検査を受けやすい環境整備も進められている<sup>3,4)</sup>。2002 年以降, 保健所などにおける HIV 抗体検査の実施件数は増加傾向にあり, こうした取り組みの成果が少しずつ上がってきていると考えられる。このように安全でより受けやすい HIV 検査の提供が試みられているものの, 献血時に HIV 感染が発覚する者の割合が増加傾向にあるように<sup>5)</sup>, 自身が HIV に感染していることを知らない者も少なくなく, HIV 検査の実施機関やその方法, HIV 検査を受けることの重要性の周知には改善の余地が残されていると思われる。

HIV 検査に関する先行研究では, 受検者を対象に受検動機や検査の実施体制について検討したものは少なくない<sup>6-12)</sup>。しかし, 一般の人々が HIV 検査についてどのように捉え, 実際に受検しているのかといった実態については, Web を用いた調査による知見が示されているが<sup>13)</sup>, 先行研究はあまりおこなわれておらず, まだ十分に明らかにされているとは言えない。そこで本研究では, 若者の HIV 検査に対する認識と利用状況を把握することを目的に調査を実施した。

## B. 研究方法

### 2-1. 研究デザイン

本研究は HIV 予防プログラムの効果を検証するための介入研究の中から, ベースライン調査のデータを用い, 横断的に分析をしたものである。

## 2-2. 対象

対象は東京都近郊の 5 つの大学に所属する大学生の男女とした。対象者はそれぞれの大学において、本研究への協力が得られた教員の授業に出席した 271 人とした。調査の途中で回答をやめた、もしくは通信障害などによってデータが不完全になった 38 人分のデータは分析から除いた。最終的に、Web 上および調査票への記入により回答が得られた 233 人 (86.0%) を分析対象とした。

## 2-3. 調査方法

本研究は 2007 年 6 月から 7 月にかけて各大学の教室にて実施された。本研究の対象者に対して、まず、介入研究全体の目的と内容についてパンフレットを用いながら口頭で説明した。次に、その説明を受け、研究の主旨に賛同した者に携帯電話などで QR コードの読み取り、もしくは URL を入力してもらい、本研究の Web サイトにアクセスをしてもらった。Web 上にて研究参加への同意の確認が得られた者に、Web の質問項目に回答してもらった。本研究の Web 上での調査プログラムは Synergy Marketing (株) の「Synergy! WISH 多機能アンケートシステム」を用いた。

調査当日に携帯電話など、Web サイトにアクセスする機器を持っていない者や、電波がつかないなど、通信上の障害があった者については、Web 上で回答するものと同じ質問項目や順番になっている無記名自記式の質問票を配布し、回答を記入した後に封筒に入れた状態で提出してもらった。

## 2-4. 調査項目

本研究の調査項目には、Misovich, S.J.らが開発したスケール (A Measure of AIDS Prevention Information, Motivation, Behavioral Skills, and Behavior<sup>14)</sup>) を日本語

に翻訳したものをを用いた。翻訳に際しては、著者の許可を得た上で日本語に翻訳をし、そのバックトランスレーションをおこない、原版の内容に忠実で、なおかつ適切な日本語の表現に翻訳できているかどうかを本研究に携わる研究者 3 名で検討した。日本語に翻訳された質問項目は大学生のフォーカスグループにより、その内容や文化的許容性等について検討され、表現や調査項目の順番といったことも含めて、対象者に分かりやすいように修正および改訂した。修正および改訂に際して、既に検証済みの評価尺度であるため、原則として、オリジナルの質問項目、内容から改変しないこととした。しかし、数項目、日本で質問するにはふさわしくないものがあったため、それらの質問項目については日本の状況に合わせた修正、もしくは質問項目の削除を行った。

改訂されたスケールは HIV/AIDS 予防、および性の知識に関する 46 項目、態度に関する 60 項目、行動に関する 18 項目の計 124 項目から構成されている。それらの項目の中から献血および HIV 検査などに関する 15 項目 (知識 8 項目、態度 5 項目、行動 2 項目) を抜き出して使用した。

知識に関する 8 項目中、7 項目の回答項目には 5 段階の回答項目を用い、英語版のスケールと同様に、質問項目が誤った内容の場合は「4. あまりそう思わない」、「5. まったくそう思わない」を「正解=1」、その他を「不正解=0」とした。知識に関する残りの 1 項目は「HIV 検査を受けられる場所」について自由記述で回答を得て、正しい場所を回答できたかどうかで 2 値変数に変換した。態度に関する項目は 5 段階の回答項目を用いた。行動に関する項目は「はい/いいえ」と、実際に HIV 検査を受けた場所を選択してもらう方法によって回答してもらった。

## 2-5. 倫理的配慮

本研究では、調査開始前に研究の目的や調査協力の自由などを口頭で説明し、さらに Web 上で調査協力の同意を確認している。Web にて収集されたデータのセキュリティについては、委託業者である Synergy Marketing(株)提供の統合顧客管理システム『ASP Service』により確保されている。自記式の調査票にて収集されたデータについても厳重に管理した。

本研究のデータのもととなっている HIV 予防介入研究は、介入研究であることを踏まえ、国立保健医療科学院研究倫理審査委員会の審査を受け、承認を得た。

## 2-6. 分析方法

HIV 検査に関する知識、態度、行動の項目について、性別との二変量解析を実施した。知識と行動の項目についてはクロス集計を実施した。態度の項目については男女別の平均値と標準偏差を算出した。HIV 検査を受検できる場所については、自由記述で回答を得た。なお、本研究で用いた統計解析には SPSS12.0J for Windows を使用した。

## C. 研究結果

### 3-1. 対象者の属性

対象者の平均年齢は 20.8 歳 (標準偏差: 2.2 歳) であった。男性が 60 人 (26.7%)、女性が 165 人 (73.3%) であった。対象者のうち、過去にセックスをした経験があると回答した者は 130 人 (58.6%)、現在セックスをするパートナーがいると答えた者は 93 人 (42.1%) であった。

### 3-2. HIV 検査に関する知識

HIV に感染している際の症状などについて

は男性の約 90%、女性の約 75%が“正しい知識”を持っていた。献血の際に HIV に感染する可能性があると考えている者は男性が 78%、女性が 81%であった。保健所では匿名検査が受けられることや、現在 HIV 検査が陰性だったとしても、HIV に感染する可能性があるということを正しく捉えている者は男女ともに 80%を越えていた。

献血時に HIV 検査が同時にできると考えている者は男性の 78%、女性の 69%であった。HIV に感染してから、HIV 検査によって発見できるようになるまでに「空白期間・ウィンドウピリオド」があることを十分に理解していないものは男性の 42%、女性の 39%であった。HIV 検査を受けられる場所を正しく挙げることができた者は男女ともに約 75%であった (表 2)。誤った場所としては、献血センターや、児童相談所や電話相談などの相談窓口が多く挙げられた。特に献血センターと回答した者は 34 人おり、全体の 14.6%に達していた。

### 3-3. HIV 検査に対する態度

HIV 検査を受けることに対して、男女ともに好意的に捉えており、来月に自分自身が検査を受けることに対しても、やや積極的な態度が見られた。同様に、パートナーに HIV 検査を受けることを勧めることについても積極的な態度が見られた (表 3)。

### 3-4. HIV 検査に対する行動

今までに HIV 検査を受けたことがある者は、男性が 3 人 (5.8%)、女性が 4 人 (2.7%) であり、全体の 3.5%にとどまった。受検経験がある者において、HIV 検査を受けた場所として、匿名検査機関が 2 人、保健所が 2 人、その他の検査機関と回答した者が 3 人であった。

## D. 考察

### 4-1. 大学生の HIV 検査に対する認識と利用状況

HIV に感染しても特に症状が出ないことがあることや、感染のリスクについては男性では約 90%、女性では約 80%が“正しい知識”を持っていた。教育現場における性に関する教育をはじめ、HIV/AIDS 予防のための様々な活動の成果として、こうした知識の普及につながっているのではないかと考えられる。

その一方で、本研究では「献血で HIV に感染する」、「献血のときに HIV 検査をすることができる」といったことについては、対象者の約 80%が誤った認識をしていた。厚生労働省が若者を対象に実施した献血に関する意識調査でも、献血で感染症に感染することはないということを 39.1%の者が「知らなかった」と回答していた<sup>15)</sup>。こうした誤った認識が献血者数の減少<sup>16)</sup>、そして献血者中における HIV 陽性率の上昇や<sup>17)</sup>に少なからず影響をおよぼしているのではないだろうか。HIV 検査の普及啓発をする際には、HIV 感染に関する献血の安全性や、献血は HIV 検査の機会とはならないことをより周知することが必要であると考えられる。

本研究の結果から、大学生は HIV 検査を受けることを重要なことだと認識しており、自分自身が検査を受けることや、パートナーに受けに行くことを勧めることに対して、積極的な者が少なくないことがわかった。しかし、受検した経験があるものは全体の 3.5%にとどまっており、実際に検査を受けるという行動につながった者は非常に少なかった。検査を受ける必要性を認識していても、実際に受検行動をした者がきわめて少ないということは、他の一般集団を対象とした研究の結果と一致している<sup>13)</sup>。

パートナーと互いの HIV ステータスを明ら

かにしておくことは HIV 感染予防につながるであろう。しかし、現状では初診時にすでに AIDS を発病している例も少なくないと言われている<sup>11)</sup>。定期的に HIV 検査を受け、自身の HIV ステータスを知っておくことは、仮に HIV に感染していることが発覚したとしても、適切なカウンセリングを受けたり、早期の治療開始が可能になる。さらには、HIV の感染拡大を予防することにもつながると考えられる。こうしたことから、HIV 検査が広く浸透することは公衆衛生上、非常に重要な役割を担っていると考えられる。人々の間では受検することそのものについては、好意的であることを考えると、受検しやすい環境を整えることによって、受検率は飛躍的に高まる可能性があると考えられる。受検率の向上のためにも、先行研究<sup>3, 13)</sup>で指摘されているように、即日検査の導入や平日夜間や休日に検査を受けられるようにするなど、より気軽に利用しやすい環境を整えることが必要であろう。

### 4-2. 研究の限界と可能性

本研究は HIV 予防介入プログラムへの協力が得られた教員のいる 5 つの大学で対象者のリクルートメントを実施した。また、大学生を対象とした研究であり、対象者数も 233 名と多くない。ここで得られた結果が大学生や一般の若者を代表した結果であるとは言いがたい。しかし、HIV 検査の実態に関する研究については、受検者のデータを用いた研究が中心であり、一般集団を対象とした研究では、30 歳以上が対象者の約 80%を占めていた<sup>13)</sup>。そのため、HIV 検査に対する若者の認識や利用状況については十分に明らかにされているとは言えなかった。

調査項目についても、本研究で用いた項目は HIV 検査の実態を評価することではなく、HIV 予防介入プログラムの評価指標として用

いたスケールからの抜粋となっている。そのため、今後は HIV 検査を受検していない理由など、若者に対して HIV 検査への認識をより詳細に尋ねることが必要であると考えられる。

上記のような研究デザイン上の限界はあるものの、本研究ではほとんどの若者が HIV 検査を受けていないという実態、および HIV 感染予防に関する知識は有しているものの、HIV 検査に関する知識は不十分であるという示唆が得られている。こうした本研究で得られた知見は今後の研究や HIV 検査の普及・浸透に有用な資料の一つとなり得ると考えられる。今後も HIV 検査の普及および受検率の向上に向け、多くの研究が行われることが期待される。

#### E. 結論

大学生は HIV 検査を受けることを重要なことだと認識しているものの、実際に受検をした経験のある者は 3.5%にとどまった。また、献血時に同時に HIV 検査ができるという誤った認識の者も多く、適切な情報提供および受検行動につながるような取り組みを強化する必要があることが示唆された。

#### 謝辞

本研究にご協力くださいました大学の教育および学生の皆様に感謝いたします。なお、本研究は平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「エイズ対策におけるテーラーメイド予防啓発介入の効果の定量的評価（主任研究者：松田智大）」の活動の一部である。

#### F. 健康危険情報

該当なし

#### G. 研究発表

該当なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

#### I. 参考文献

- 1) 厚生労働省エイズ動向委員会：平成 18 年エイズ発生動向年報. 2007.
- 2) 厚生労働省疾病対策課：平成 19 年度 HIV 検査普及週間実施要綱. 2007.
- 3) 嶋貴子，一色ミユキ，近藤真規子，他：保健所における HIV 即日検査導入の試みとその効果. 日本公衆衛生雑誌, 53(3), 167-177, 2006.
- 4) 平成 17 年度厚生科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 エイズ対策研究（主任研究者：今井光信）：HIV 検査体制の構築に関する研究. 2005.
- 5) 厚生労働省：第 111 回エイズ動向委員会（11 月 9 日）配布資料.
- 6) 高橋幸枝，山崎喜比古，川田智恵子：保健所における HIV 抗体検査来所者の受検動機発生から来所までの行動と不安. 日本公衆衛生雑誌, 46(4), 275-288, 1999.
- 7) 中瀬克己，嶋貴子，今井光信：保健所での検査・予防活動. 日本エイズ学会誌, 6(3), 118-122, 2004.
- 8) 金子典代，内海眞，市川誠一：東海地域のゲイ・バイセクシュアル男性の HIV 抗体検査の受検動機と感染予防行動. 日本看護研究学会雑誌, 30(4), 37-43, 2007.
- 9) 北川信一郎，木原雅子，田原紀子，土井渉，木原正博：保健所における HIV 抗体検査の頻回受検者の特性に関する研究. 日本エイズ学会誌, 7(1), 49-53, 2005.
- 10) 渡辺晃紀，中村好一，城所敏英，梅田珠実，長谷川嘉春，田村嘉孝，谷原真一，橋本修二：HIV 抗体検査受診者の特性に

- ついでに保健所間差. 厚生指針, 52(4), 12-16, 2005.
- 11) 徳永博俊, 和田秀穂, 山田治, 杉原尚 : 川崎医科大学付属病院における HIV 抗体検査及び HIV 感染者/AIDS 患者の現状. 日本エイズ学会誌, 9(2), 153-157, 2007.
  - 12) 廣岡憲造, 前川勲, 増地あゆみ, 今井光信, 宇佐美香織, 神田浩路, 玉城英彦 : 北海道における HIV 検査のニーズに関する Web 調査. 日本エイズ学会誌, 9(1), 36-46, 2007.
  - 13) 山川朋子, 木村和子, 小野俊介, 辻典子, 上田幹夫 : 石川県の病院・診療所における HIV 抗体検査の実態と初期対応. 日本エイズ学会誌, 8(3), 163-168, 2006.
  - 14) Misovich SJ, Fisher WA, Fisher JD : A measure of AIDS prevention information, motivation, behavioral skills, and behavior.
  - 15) 厚生労働省医薬品局 : 若年層献血意識に関する調査結果報告書. 2006.
  - 16) 日本赤十字社 : 血液事業の現状・平成 17 年統計表. 2006 年.
  - 17) 清水勝, 池田久實, 中村榮一, 神谷忠, 矢内純吉, 清川尚, 竹中道子 : 献血者・妊婦などに関する研究グループ総括. HIV 感染症の動向と予防介入に関する社会疫学的研究 (主任研究者 : 木原正博). 243-257, 2003.

表1. 大学生におけるHIV検査に対する知識

<知識に関する項目>	男性		女性		合計		p
	n	%	n	%	n	%	
HIVに感染するとはっきりした症状がでる	55	(91.7)	121	(73.3)	176	(78.2)	=0.003
HIVに感染していても、エイズの症状が出る前には伝染させない	54	(90.0)	129	(78.2)	183	(81.3)	=0.044
献血でHIVに感染する	13	(21.7)	31	(18.8)	44	(19.6)	=0.630
献血のときにHIV検査をすることができる	13	(21.7)	51	(30.9)	64	(28.4)	=0.174
保健所の検査では自分の名前を教えなければならない	53	(88.3)	136	(82.4)	189	(84.0)	=0.285
コンドームを使用しなかったセックスの2週間後に受けたHIV検査が「陰性」だった場合、HIVに感染していないといえる	35	(58.3)	103	(62.4)	138	(61.3)	=0.577
現在HIV検査が陰性であれば、これからもHIVに感染する可能性は低い	55	(91.7)	148	(89.7)	203	(90.2)	=0.660
HIV検査を受けられる、正しい場所(正しい回答のみをした者の割合)	42	(72.4)	116	(76.8)	158	(75.6)	=0.645

※ それぞれの項目に対して、「4.あまりそう思わない」、「5.まったくそう思わない」と回答した者の割合

表2. 大学生におけるHIV検査に対する態度

<態度に関する項目>	男性	女性	合計
	mean(SD)	mean(SD)	mean(SD)
来月、HIV血液検査を受けるのは… <sup>a</sup>	1.92 (1.01)	1.92 (1.02)	1.94 (1.03)
来月、パートナーにHIV血液検査を受けるように言うのは… <sup>a</sup>	2.63 (1.24)	2.50 (1.33)	2.54 (1.31)
私にとって大切な人達の多くは、私がHIV血液検査を受けるべきと考えていると思う <sup>b</sup>	2.29 (0.95)	2.30 (1.10)	2.31 (1.07)
私は来月、HIV感染をしているかどうかを調べるための血液検査を受けるつもりだ <sup>c</sup>	3.82 (0.95)	3.63 (1.41)	3.70 (1.29)
来月、パートナーにHIV血液検査を受けるように言うつもりだ <sup>c</sup>	3.77 (1.10)	3.48 (1.35)	3.57 (1.28)

a: 「1.とても良い」～「5.とても嫌だ」の5段階

b: 「1.まったくその通りだ」～「5.全然そうではない」の5段階

c: 「1.絶対しない」～「5.絶対する」の5段階

※ 合計には性別が不明の者も含まれる

厚生労働科学研究費補助金 (エイズ対策研究事業)  
分担研究報告書

エイズ予防介入プログラムについて

研究協力者 渡會 睦子 (東京医療保健大学)

研究要旨

【目的】 テーラーメイドエイズ予防介入に資する本研究のために、プログラム内容を開発する。【方法】 若年層に対するエイズ予防・性教育プログラムを改変したものを利用することとした。著者が今日まで実際に利用してきた性教育教材をもとに、プログラム内容を、10のモジュールに分け、本研究のエイズ予防介入に合わせて編集し、内容の確定を行い、60分間を1回という介入プログラムの枠に入るように設定した。

【結果】 エイズ予防には、生命やパートナーの性の尊重、薬物から身を守る方法等を含む、包括的なアプローチが必要であるとの考えから、様々な情報を同時に提供することとした。

【結論】 同様の内容を伝達するのに、二つの違うタイプの資料を作成することができた。本教材を精査することによって、テーラーメイドエイズ予防介入のための教材を作成することが可能である。

A. 研究目的

テーラーメイドエイズ予防介入に資するプログラム内容を開発する。

B. 研究方法

最終的にグループは無差別に（性に偏りなく）2群（対照1群，介入2群）とし，介入群には2種類のプログラム（A「生命・人間関係を重視」，B「性感染症の知識を重視」）を実施することとした。

プログラムをこの2種とした背景には，これまでの知見として「性行為を生命の重要な営みとして捉える考え方をしない若者

に，一時的な性行為に陥りやすい者がみられる」もしくは「性行動の活発な（性行為経験のある）若者は具体的な性感染症の情報を求める」という報告があることによる。

プログラム内容は，若年層に対するエイズ予防・性教育プログラムを改変したものを利用することとした。

C. D. 研究結果および考察

今日まで実際に利用してきた性教育教材をもとに，本研究のエイズ予防介入に合わせて編集し，内容の確定を行った。

改変にあたっては，Compendium of HIV



Prevention Interventions with Evidence of Effectiveness (CDC's HIV/AIDS Prevention Research Synthesis Project) も参考にした[10]. また、もともと、「高校生向け」であった教材を、大学生以上を対象とするにあたり、「性行動が活発になり始める年代に向けたもの」、から「性交をする機会が頻繁にあるということを想定したもの」に改変するという作業を行い、さらにエイズ予防介入ということで予防方法の教育に重点を置いた。

プログラム内容を、10のモジュールに分け、60分間を1回という介入プログラムの枠に入るように設定した。モジュールのタイトルは、1) ライフサイクルと青年期、2) 決定判断できる力、3) 自他の生命の尊重、4) 異性の尊重、5) 性行動の選択、6) 避妊、7) 性感染症 (HIV とその他の STD)、8) エイズの予防とコンドームの使用、9) 売買春、性の社会的病理、性犯罪、10) アルコールと薬物である。焦点は、モジュール 7 と 8 にあるが、エイズ予防には、生命やパートナーの性の尊重、薬物から身を守る方法等を含む、包括的なアプローチが必要であるとの考えから、様々な情報を同時に提供することとした。

各介入群 (A グループおよび B グループ) の介入プログラムは、提供する知識の内容はそれぞれのモジュールにおいて同一のものとし、表現の仕方においてのみ 2 群における差別化をはかった。

介入プログラムは 2 種類あり (A: 「生命・人間関係重視型」、B: 「性感染症の知識重視型」いずれも家族計画教会出版の高校生向け CD-ROM スライド資料使用)、いずれかのプログラムに割り当てられる。実施は、大

学の教室を利用し、準備した教材をパワーポイントのスライドとして映写し、講義形式とした。

1) 2 種のプログラム A: 「生命・人間関係重視型」、B: 「性感染症の知識重視型」について

下記に、A: 「生命・人間関係重視型」、B: 「性感染症の知識重視型」の特徴を述べる。

1) プログラム A: 「生命・人間関係重視」

プログラム A: 「生命・人間関係重視」では、性感染症の予防を行うための生命・人間関係に関する項目に重点を置いたプログラムとなっている。

前半部に、性行為と人生の関係、生命の尊重について伝え、後半部で性感染症について考えていくことができる 60 枚のスライドを 60 分で講義するプログラムになっている。

1-1) 生命の尊さから自分を大切にする・人を大切にするには何が必要か

1. 人間の人生
2. 青年期の課題
3. 自分本位の生き方と他者への思いやり
4. 好きと言う気持ちと自分の心
5. 他者も大切に。そしてもちろん自分も大切に。
6. 性は人間の人生を考えることです

1-2) 思春期以降の二次性徴における性的な発達や心理面、交際のマナーについて

7. 思春期からの男子と女子の心の違い  
4 枚

- 8. 接近欲
  - 9. 接触欲
  - 10. 性の不安や悩み
  - 11. 男子と女子の心の違い
  - 12. 異性とのかかわりの中では
  - 13. 異性との付き合いのマナー
  - 14. 脳の役割 8枚
  - 15. 男子と女子の心の違い
  - 16. 交際と責任 7枚
- 1-3) 性行為と人生の関係、生命の尊重について
- 17. 一度の性行為でも、自分の人生に関係してくることがある。 2枚
  - 18. 生命の尊重
  - 19. インフォームドコンセント
  - 20. 生命に対する責任
- 1-4) 性行為のリスクとしての性感染症について
- 21. 性感染症とはどんな病気でしょうか
  - 22. 今、あなたの性を大切にしてほしい理由
  - 23. 性は人間の生を考えることである。
  - 24. どうして、若い人たちに、性感染症が増えてきたのだろうか？
  - 25. 性感染症の症状と治療について 3枚
  - 26. ただ一度の経験の背後には
  - 27. 保健所における HIV 抗体検査・相談受付実施件数
  - 28. 日本の AIDS 患者・HIV 感染者報告数
  - 29. AIDS 患者と HIV 感染者の累計
  - 30. HIV の感染経路 2枚
  - 31. AIDS の誤解とうわさ
  - 32. 保健所での HIV 抗体検査の流れ
  - 33. HIV 抗体検査後の感想
- 34. クラミジア 2枚
  - 35. 梅毒 2枚
- 1-5) 性感染症の予防
- 36. 性感染症の予防 2枚
  - 37. 自分を大切にすること
  - 38. 周囲の人と話す重要性
- 2) プログラム B: 「性感染症の知識重視」
- B: 「性感染症の知識重視型」は、性感染症の知識に関する項目に重点を置いたプログラムとなっている。
- 全体的に性感染症について伝え、最後に性行為と人生の関係、生命の尊重について伝えていくことができる 60 枚のスライドを 60 分で講義するプログラムになっている。
- 2-1) 性感染症について
- 1. 「性感染症」とはどんな病気でしょうか
  - 2. 今、あなたの性を大切にしてほしい理由
  - 3. 性は人間の性を考えることである。
  - 4. 一度の性行為でも、自分の人生に関係してくることがある。 2枚
  - 5. 性感染症の症状と治療 3枚
  - 6. ただ一度の経験の背後には
  - 7. 保健所における HIV 抗体検査・相談受付実施件数
  - 8. 日本の AIDS 患者・HIV 感染者報告数
  - 9. AIDS 患者と HIV 感染者の累計
  - 10. HIV の感染経路 2枚
  - 11. これらではうつもりません 2枚
  - 12. HIV 感染の危険性の高い人は誰でしょう

13. 保健所での HIV 抗体検査について 4  
枚

14. クラミジア 4枚

15. 淋病

16. 性器ヘルペス 2枚

17. 尖圭コンジローマ

18. 梅毒 4枚

19. トリコモナス膣炎

20. 毛じらみ 2枚

2-2) 性感染症の予防

21. 性感染症の予防

22. みなさんに注意してほしいことは 3  
枚

23. 性の病気

2-3) 性情報と犯罪

24. 性情報と犯罪

25. 出会い系サイトなどの事件

26. 危険な出会いと性

27. 多くの人との性行為 2枚

28. 飲酒・麻薬と性 2枚

29. 性被害と加害 3枚

30. デートレイプとは

2-4) 自分を大切にする・人を大切にするには何が必要か

31. 性は、自分のもの

32. 性の病気と自分をまもること

2-6) 思春期以降の二次性徴における性的な発達や心理面、交際のマナーについて

33. 大人への成長

34. 異性との付き合いとマナー

35. 脳の役割

36. 周囲の人と話す重要性

#### E. 結論

同様の内容を伝達するのに、二つの違うタイプの資料を作成することができた。本教材を精査することによって、テラーメイドエイズ予防介入のための教材を作成することが可能である。

#### F. 健康危険情報

該当なし。

#### G. 研究発表

1. 論文発表

特になし

2. 学会発表

特になし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

III. 研究成果の刊行に関する一覧表

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
竹原健二, 松田智大, 児玉知子	HIV 予防介入の介入プログラムに関する文献レビュー	日本エイズ学会誌	10 (4)		2008 (印刷中)
Takatsuka, M., T. Matsuda, T. Kodama.	"Interventions to promote sexual health risk reduction in adolescents in Japan : A literature Review "	AIDS Education and Prevention.			(投稿中)
竹原健二, 松田智大, 児玉知子	大学生の HIV 検査に対する認識と利用状況の実態	公衆衛生学雑誌			(投稿中)